

第1回習志野市市民協働推進委員会議事録

1 開催日時 令和元年5月30日(木)午前10時~11時30分

2 開催場所 習志野市庁舎5階 5-3会議室

3 出席者

【委員】公募委員 伊藤 睦子

認定特定非営利活動法人 ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

代表理事 牧野 昌子

千葉工業大学 創造工学部建築学科 助教 田島 則行

特定非営利活動法人 じょいんと 事務局長 松井 秀明

習志野市連合町会連絡協議会 屋敷連合町会 会長 林 孝治

習志野商工会議所 事務局長 岡畑 和弘

社会福祉法人 習志野市社会福祉協議会 地域福祉課 主任主事 三橋 亜友美

習志野市 こども部 子育て支援課 課長 相澤 慶一

習志野市 生涯学習部 社会教育課 課長(生涯学習部 副参事) 吉岡 治

【事務局】協働経済部

部長 片岡 利江

次長 根本 勇一

協働経済部 協働政策課 課長 佐久間 心之

係長 柴野 タ子

副主査 佐々木 康太

4 会議内容

第1 委員長の選出

第2 副委員長の選出

第3 会議録の作成等

第4 会議録署名委員の指名

第5 協議(1) 習志野市市民協働基本方針の見直しについて

第6 報告(1) 令和元年度市民活動団体支援等の施策概要について

5 会議資料 第1回習志野市市民協働推進委員会に関する資料

※別添資料

会議次第

資料1、参考資料1、参考資料2 習志野市市民協働基本方針の見直しについて

資料2 令和元年度市民活動団体支援等の施策概要について

6 会議内容

第1 委員長の選出

指名推薦(互選の方法)により、牧野委員が委員長に決する。

第2 副委員長の選出

委員長一任(互選の方法)により、松井委員が副委員長に決する。

第3 会議録の作成等

要点筆記とする。

第4 会議録署名委員の指名

伊藤委員、田島委員

第5 協議(1) 習志野市市民協働基本方針の見直しについて

【三橋委員】 図が簡潔で見やすくなった。

【牧野委員長】 5ページの市民協働のイメージ図については、市民・市民活動団体と企業・学校等が重なり合う部分を協働、市と市民・市民活動と企業・学校等が重なり合う部分を市民協働としている。ここは重要だと思うので、再度、事務局から補足説明をお願いしたい。

【協働経済部長 片岡】 市民・市民活動団体と企業・学校等が重なり合う部分も本来は市民協働であると考え。市民協働基本方針は市職員のバイブルとしており、市職員にしっかりと意識させるためにも協働と市民協働を使い分け、市が関わる部分については市民協働として協調している。

【牧野委員長】 互いに協力・協調することを協働、同じ意味ではあるが、市が関わる場合は、互いの特性を理解し、対等な立場で共通の目標を達成するためというように、あえて区別し、市民の理解、市全体へ深めていくということのようである。現状では、共通の目標という部分に対する理解が進んでいない。また、市民活動団体と行政はまだ対等ではない。その点は再確認しておきたい。

第6 報告(1) 令和元年度市民活動団体支援等の施策概要について

【牧野委員長】 今年度、取り組む事業について、せっかくの機会であるから皆さまから御意見・御質問を伺いたい。

【田島委員】 市民協働インフォメーションルームは市役所内にあるのか。また、これまでにやってきた学生の地域活動への参加促進に関する取り組みについて伺いたい。

【協働政策課長 佐久間】 京成津田沼駅ビルのサンロード津田沼5階・6階が市庁舎分室となり、その5階に市民協働インフォメーションルームと男女共同参画センターがある。次に、学生の地域活動への参加促進策については、「まち・ひと・しごと」創生人口ビジョン・総合戦略の具体的施策のひとつとして位置付け、市内3大学の学生から施策提案をいただき、3大学の学生グループへの委託も視野に入れ、提案実現・事業化に向けて取り組んできたが、実現には至らなかった。その後、学生の地域活動への参加促進のための環境支援及び学生の地域活動を評価する仕組みを構築するため、大学生地域活動推進会議の設置を検討したが、設置については見直し、学生と地域の取り組み等を紹介する協働事例集を作成し、3大学の紹介、学生の地域活動等の情報を地域へ発信するとともに、さらに地域活動への参加促進のために取り組む予定である。

【牧野委員長】 地元企業の社会貢献活動も関係してくる。まちづくり応援事業提案制度について、岡畑委員は何か御意見はないか。

【岡畑委員】 まちづくり応援事業提案制度については、本日まで制度を理解していなかった。理解した上で今後、質問したい。市民参加型補助金の実施については、補助事業の申請があり、その事業提案について評価・審査を1件ずつするというところでよいか。

【協働政策課長 佐久間】 おっしゃるとおりである。

【岡畑委員】 習志野市まちづくり参画証について伺う。例えば平成30年度の申請件数は8件、発行枚数は342枚とある。同じ人に重複して発行しているのか。また毎年度同じ企業や人に発行しているのか。あとでよいので参画証を見せていただきたい。

【協働政策課長 佐久間】 団体の詳細については、手元に資料がないので、この場でお答えすることができないが、毎年、同じような団体から申請をいただく。代表的なものは、小・中学生が防犯意識向上のため啓発活動を行う、習志野きらっとジュニア防犯隊である。当該年度に参加した隊員に対し発行している状況である。

参画証については、サンプルがあるので回覧させていただくが、氏名の他、活動写真等も掲載している。ボランティア活動の証明として活用しているようだ。

【岡畑委員】 企業に発行することもあるのか。

【協働政策課長 佐久間】 企業で谷津干潟の清掃活動に参加することに対して相談をいただいた。企業名で発行することも可能である。

【牧野委員長】 まちづくり参画証は常時発行している。参画証の発行は市民活動の裾野を広げることにつながると思う。

【伊藤委員】 日本大学生産工学部や東邦大学の学生には地元町会でもいろいろ協力をいただいている。学生の地域活動を紹介する冊子があればよいと思っていた。冊子の発行には期待している。

【三橋委員】 令和2年度の市民参加型補助金については、10月の推進委員会で説明があると思うが、一部採択については話し合いができるのか。

【協働政策課長 佐久間】 団体の育成という視点から、一部採択も必要であるとの御意見をいただいたが、補助金の性質も踏まえ、一部採択を取り入れるかどうかは慎重に検討していきたい。

【牧野委員長】 習志野市では、市民協働型提案事業と市民参加型補助金かだい提案型と2つ行政から課題を提案する機会があるが、他市では、庁内からのテーマ（行政課題）はなかなか出てこないと聞いている。この点をどう考えるか、子育て支援課長の相澤委員に伺う。

【相澤委員】 子育て支援課では市民協働型委託事業と市民参加型補助金かだい提案型、どちらもテーマとして採択されて取り組んでいただいたが、市民からは好評であった。一を見直したということか。かだい提案型テーマの募集だけ10月からということか。

【協働政策課長 佐久間】 市民団体の自由な発想をもとに、公益的な事業に活用できる「わかもの活力型」「ちいき活力型」と行政が提示したテーマに対し、市民活動団体の力で解決する「かだい提案型」の3つのメニューがある。「かだい提案型」のテーマを庁内に照会するのが10月頃となる。

【牧野委員長】 行政課題（テーマ）について庁内へ照会するという点は同じであるが、補助金と委託事業では行政の関わり方が違う。

【吉岡委員】 市民協働インフォメーションルームの利用者数が減少傾向にあるのをどのように考えるか。理由によっては、生涯学習施設においても同じように課題として受け止めなければならないので、わかれば教えていただきたい。次に要望として、協働事例集については地域からの期待も大きい

と思うので、多くの方に見ていただけるよう配布方法を検討していただきたい。

【協働政策課長 佐久間】 市民協働インフォメーションルームの利用者については、登録団体も減少傾向にある。活動拠点の変更もあるかと思うが、高齢化等による活動の継続、団体の継続であると考えている。事例集については、10月頃の発行に向けて、各大学に協力をお願いしているところである。大学、公共施設、町会等での配布を検討している。

【牧野委員長】 何部発行の予定か。

【協働政策課長 佐久間】 大学から学生、中学生・高校生への配布要望もいただいている。その他の御要望も伺いながら、予算調整のうえ、発行部数を検討していきたい。発行部数については決まりしだい、報告させていただく。

【牧野委員長】 事例集の活用については期待している。ページ等の詳細について伺いたい。

【協働政策課 市民協働推進係長 柴野】 A5サイズ、フルカラー、表紙・裏表紙等を含む20ページ。構成としては、目次、発行にあたって、市民参加型補助金を活用し学生と地域で連携して取り組みを行っている団体については見開き4ページ、市内3大学それぞれ4ページを割り当て、大学紹介と市民協働を実践する教授のインタビューと学生活動団体の紹介を予定している。また学生に市民参加型補助金を活用していただきたいので、市民参加型補助金制度も掲載予定である。

【松井副委員長】 よい制度が多くある。応募がなければ事業は進められない。委員の皆様は市民協働施策を知り、様々な場での周知をお願いしたい。

第2回習志野市市民協働推進委員会議事録

1 開催日時 令和元年11月8日(金)午前10時~11時15分

2 開催場所 習志野市庁舎5階 5-3会議室

3 出席者

【委員】 認定特定非営利活動法人 ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

代表理事 牧野 昌子

千葉工業大学 創造工学部建築学科 助教 田島 則行

特定非営利活動法人 ならしの子ども劇場 理事長 栢 まゆみ

特定非営利活動法人 じょいんと 事務局長 松井 秀明

習志野市連合町会連絡協議会 屋敷連合町会 会長 林 孝治

習志野商工会議所 事務局長 岡畑 和弘

習志野市 こども部 子育て支援課 課長 相澤 慶一

習志野市 生涯学習部 社会教育課 課長 (生涯学習部 副参事) 吉岡 治

【事務局】 協働経済部 部長 片岡 利江

協働経済部 次長 根本 勇一

協働経済部 協働政策課 課長 佐久間 心之

協働経済部 協働政策課 係長 柴野 夕子

副主査 佐々木 康太

4 会議内容

第1 会議録の作成等

第2 会議録署名委員の指名

第3 報告(1) 平成30年度市民協働・市民参画事業実施報告について

報告(2) 令和元年度習志野市市民参加型補助金採択事業について

5 会議資料 第2回習志野市市民協働推進委員会に関する資料

会議次第

資料1、参考資料1 平成30年度市民協働・市民参画事業実施報告について

資料2 令和元年度習志野市市民参加型補助金採択事業について

6 会議内容

第1 会議録の作成等

要点筆記とする。

第2 会議録署名委員の指名

栢委員、林委員

第3 報告(1) 平成30年度市民協働・市民参画事業実施報告について

【牧野委員長】 金井宣茂宇宙飛行士は、習志野市出身なのか。

【協働経済部長 片岡】 市川市内の小学校から東邦中高に進学したことから、はじめは東邦高校と市川市で事業が進んでいたようだが、東邦高校のある習志野市もということで参加させていただくこととなった。

【牧野委員長】 金井飛行士の件はテレビでも紹介されていた。

【牧野委員長】 事業協力の「商店街コミュニケーションツール試験配布事業」については、今後、広がってほしい。筆談器とコミュニケーションボードの設置は、一定期間だけなのか。

【協働政策課 佐々木】 担当課である障がい福祉課に確認したところ、設置したものは、そのまま事業者に配布予定とのこと。

【田島委員】 市民協働・市民参画事業が172事業ある中で、各項目1件の紹介では、どのような感じか把握しづらい。全事業の事業名一覧があれば傾向がつかみやすい。

【協働政策課長 佐久間】 事業名・事業内容等の概要を後日、全委員に配布させていただく。

【牧野委員長】 事業委託先もわかるとよい。

【吉岡委員】 市民参画で紹介した「プラッツ習志野」が11月2日にオープンした。市民活動の拠点としてぜひ活用していただきたい。

【牧野委員長】 機能を紹介してほしい。

【吉岡委員】 市民ホールの座席数は324席、広さは293.4平方メートルである。オープニング式典の際には、第二中学校と第六中学校、習志野高校が演奏したが、来場者から施設のつくりがよいので音に関しても素晴らしいという感想をいただいた。音楽室・研修室等も数多くある。

【牧野委員長】 京成大久保駅前でありながら、パークゴルフ場等もあり、環境がよい。

【吉岡委員】 施設内のフューチャーセンターは、新しく設けたスペースである。市民・団体・学校・企業・行政の交流や協働、対話を後押しする「まちのコラボスペース」ということで場所を確保している。

【牧野委員長】 市民活動では、活動場所の確保が悩みのたねである。活用できる施設があるのは財産、市民協働がより推進する。市外の人も借りることができるのか。

【吉岡委員】 市外の人も利用可能だが、施設の利用にあたっては、事前に団体登録が必要となり、3名以上の団体で、市内在住・在学・在勤者が半数以上含まれていることが必要となる。

【栢委員】 プラッツ習志野のオープニングフェスティバルには多くの市民活動団体が参加していた。当団体も加えていただいたが、市内にはいろいろな分野の団体が活動されていることがわかった。フューチャーセンターを中心に活動が広がってほしいと思う。南館には「こどもスペース」があり、小さい子ども安心して遊べる。子どもたちは寝転んだりできて、気持ちがいいと言っていた。このようなスペースの活用も知っていただきたい。

第3 報告(2) 令和元年度習志野市市民参加型補助金採択事業について

【牧野委員長】 中間報告をいただいて、審査のことが思い出された。私たち審査委員は、事業の経過を確認し、実績報告を受けて、最後まで見届けるという役目を果たさなければならない。

【松井副委員長】 ボーイスカウト習志野第2団、習志野芸能クラブについては、集客人数に応じて、事業の妥当性を判断し、補助金額が決められるのか。

【協働政策課 柴野】 補助金は概算払で交付。3月末までに支出・収入を報告し精算いただく。

【牧野委員長】 申請の際の事業計画にはどのような事業内容で対象人数はどれくらいなのかが記載されている。事業終了時にはどのような理由から事業が計画どおりに進まなかったのか、人数が集まらなかったのかということは実績報告会で問われることとなる。

【協働政策課長 佐久間】 補足だが、集客に対しての補助金交付条件はない。ただし、収入として入場料等を徴収し、事業計画で100人としたが、実際は200人集まり収入が増えたということであれば、その分を差し引いて、補助金は減額になる。それが概算払での交付ということ。

【牧野委員長】 習志野芸能クラブは、芸能プロダクションのようなシステムである。

【林委員】 小規模の団体が補助金をもらうために集まっているだけのような印象を受ける。

【牧野委員長】 他市町村では、劇団、コーラス等、提供内容は一つである。習志野芸能クラブは、小規模の団体をマネジメントしている。10月に行われた松戸市の補助金審査会でも各団体が少額の補助金申請が多かった。各団体が連携し事業を実施するほうが受け手側にとってはよいのではないか。他では例のない、非常によい取り組みだと思う。

【吉岡委員】 紙芝居は小中学校及び公民館、高齢者施設等で上演会を実施するとあるが、回数や場所は決定しているのか。

【協働政策課 柴野】 上演会については、検討中とのこと。紙芝居は11月の校園長会議を通して市内の保育所・幼稚園・小学校等に配布させていただく予定である。

【吉岡委員】 子ども劇場の広報誌の配布方法等について伺う。

【栢委員】 市内の公立幼稚園と小学校に配布、公民館・図書館・公共施設に設置予定。

【田島委員】 習志野芸能クラブに対する留意事項として「団体の活動を継続するために収益を得るしくみを検討してください」とあるが、これは大変よいコメントである。民間の収益を公共の資金でやる時は、いいとか悪いとか白黒で語ってしまう。公共のためになる活動をしてくれる目的が一番大事で、その目的のためであれば民間の団体が収益を得ることができるよう後押しするのが本来公共の役割だと考える。そういう意味では単純に補助金交付ということだけでなく、補助金をきっかけに団体が自立していくよう支援するという点が非常によい。

【協働政策課長 佐久間】 市民参加型補助金制度は同じ事業での採択が3回を限度としている。習志野芸能クラブは今回で2回。審査委員から事業を継続していくために、どういうことをしていかなければならないのかが課題であるとの意見を頂戴し、このような留意事項となった。今後どのように活動を継続していくのかがポイントだと思っている。

【林委員】 アマチュア無線は資格が必要だと思う。この交付額でシステムを構築するのは無理ではないか。国でもシステムが構築されていない。市単独でこの額で構築できるのか疑問。

【協働政策課 柴野】 市庁舎6階にアマチュア無線の通信基盤が設置されており、災害時は本市と協定を締結しているアマチュア無線の有資格者が操作する。無線を活用し文字情報を通信可能なシステムは災害時に医療分野で活用できることから、担当課で予算を確保し構築を検討したが、莫大な費用がかかることから断念。そこで、協力関係にあるアマチュア無線非常通信連絡会にシステムの構築について相談したところ、単純なシステムであれば、安価で構築できるということで、団体が自主的に補助金を活用し構築するに至った。

【林委員】 国においてもアマチュア無線の必要性は騒がれているが、活用されていない。

【牧野委員長】 市民参加型補助金でこのようなシステムが構築できるのはすばらしい。

【協働政策課 柴野】 習志野市はアマチュア無線の活用において先進市。医師会等の関係機関で

も必要性を認識、現在では50人以上の有資格者がいるとのこと。

【牧野委員長】 医師の方で有資格者がそれほどいるのはすばらしい。システムは報道機関にリリースするとか、PRしたほうがよい。

【栢委員】 補助金を活用し、子ども記者募集のチラシを全学校に配布ができたことから、団体の活動が認知され、団体独自の別の事業において、これまで参加者が7人程度のものが21人まで増えた。また、千葉工業大学の協力を得て、ワークショップの開催を予定している。このように、補助金を活用したことで、今後の活動にも弾みがついた。引き続き、子どもが参画する事業を大切にしていきたい。

【牧野委員長】 補助金の活用は、制度の下で事業を展開しなければならないので、事業の推進力が自然についていく。会費だけで活動するより、資金とともに、いろいろな関わりを得て活動するというのは団体の成長につながる。各団体にはぜひ補助金の活用を検討していただきたい。今年度の採択事業はそれぞれ分野も異なり、事業内容もよい。事業の実施状況報告を踏まえ、実績報告会でのプレゼンテーションまでしっかり見届けたい。

【岡畑委員】 令和元年度の市民化参加型補助金の申請はどれくらいあったのか。

【協働政策課 柴野】 申請は9団体。

【岡畑委員】 毎年、それ位なのか。

【協働政策課 柴野】 平成29年度は2件、平成30年度に補助金のメニューを見直し、申請は10件に増えた。うち7事業が採択された。

【牧野委員長】 審査から時間が経過しているので、事業内容を忘れてしまっていた。実績報告会に向けて、補助金採択事業の中間報告があるのはありがたい。

【相澤委員】 紙芝居は市内の小中学校、公民館、高齢者施設で上演会を検討しているということだが、何年生以上が対象なのか。保育所に通う子どもでも理解できるのか。

【協働政策課 佐々木】 団体は保育所・幼稚園・こども園・小学校に紙芝居の配布を考えている。保育所に通う年齢でも理解できる内容となっている。

【相澤委員】 紙芝居は何部できたのか。

【協働政策課 佐々木】 申請時の事業計画では50部とある。

【相澤委員】 こどもセンターにもいただきたい。また、子どもがつくるオリンピック広報誌の子ども記者15名の学年など構成について伺う。

【栢委員】 募集は小学4年生以上である。市内小学校から各学年が参加している。

【相澤委員】 オリンピックといっても多岐にわたることから大変だったと思う。コンセプト、どのようなことを目指し取り組んだのか伺う。

【栢委員】 子どもたちがオリンピックを通して夢を持つこと、市民の皆さんがオリンピックを楽しみに、そして習志野市を好きになるという市からの課題であったことから、それを目的として取り組んだ。オランダ水泳チームが世界水泳に向け本市でキャンプを行うとのことで、中にはオリンピック候補選手も多くいるだろうと取材を申し込んだ。公開練習とインタビューの内容、子ども記者の案でオリンピックの歴史も掲載することとなった。

【牧野委員長】 16,000部発行するのでいろいろなところで配布できるのではないか。

【栢委員】 事業を企画する際の悩みであり、大きな課題は、情報をどのように届けるかということ。公民館等の公共施設でチラシから情報を得るという人は少なくなっている。これまで協働政策課主催のチラシの作り方講座に参加したことはあるが、

当団体ではフェイスブック、インスタグラムによる情報発信をしており、最近ではプラッツ習志野で開催した講座情報を500件のアクセスがあったが、掲載頻度、どのような写真や掲載情報がよいのか等、効果的な情報発信のためにSNS関係の活用について、もっと知りたい。

【田島委員】情報伝達においては難しい時期に差し掛かっている。昔のように掲示板に貼っておけば、誰もが見てくれるという時代ではない。且つ、習志野市は交通の通過点で、市内で活動していない住民が多い。見る情報・見たい情報が人によって全く違う。高齢者はインターネット等より紙媒体。50代、40代、30代は各年代で異なる。若い人はインスタグラムだが、子どもには使い方が難しい。行政・情報伝達のプロが助けなければ、団体だけでは解決できない問題である。

【牧野委員長】NPOのための広報講座では、紙とWEBによる周知をしなければ伝わらないこと、ホームページは月1回、ブログは週1回、フェイスブックは週3回程度更新するよう教えられる。

【田島委員】習志野市の市民活動に関するページを私の研究室で作ることは可能だが、作ったところでアクセス数が少なければ、役に立たない。アクセスすれば、全ての市民活動情報がわかる、リンクが張られ、詳細がわかる。そうなれば、アクセス数も伸びるのではないか。

【協働政策課長 佐久間】本市においても地域情報ポータルサイト「コミュチカ」というものがあり、市民活動団体の紹介、各団体のページにリンクを張っている。

【協働政策課 柴野】地域情報ポータルサイト「コミュチカ」は、コミュニティの「コミュ」、近場の「チカ」で「コミュチカ」といい、グルメ等の地域情報を掲載しているサイト、そこに市民活動も掲載している。市民活動に興味のない人も、他の情報を得る際に市民活動情報を目にすることができる。アクセス数が増える可能性もある。また、当課でも情報発信研修に取り組んでおり、10月にスマートフォン持参のコミュチカ活用講座を開催した。

【協働政策課長 佐久間】本市には民間で情報発信に携わっていた「まちづくり広報監」がいるので、どのような形で情報を発信すればよいのか、どのようなツールを使えば効果的なのか、市民活動の魅力と団体の情報発信に関する講座の開催について検討していきたい。

【田島委員】確認したところ「コミュチカ」は、ポータルサイトというよりはリストサイトではないか。ポータルサイトとは、そのページを見れば全ての情報がわかるというもの。わかりやすいものではヤフーページ。例えば、市民ライターが市民活動を取材し、このようなことをやっている等と随時掲載する。そのページを見ると、団体の楽しそうに活動する様子が掲載、各団体の情報も掲載されているような情報発信サイトがあると、ビジュアルから伝わる、そこに情報を掲載すれば、広く周知される、そのようなイメージである

【協働経済部長 片岡】市民活動専用ホームページについては、必要性を認識し検討していくなかで、現在のポータルサイトの活用に至った。情報発信の変化に対応すべく行政も研究しなければならない。

【田島委員】時代の変化に伴い、情報発信も変化している。技術も進化しているので、情報掲載の負担も減ってきている。ポータルサイトに関する事例はあらためて紹介する。

第3回習志野市市民協働推進委員会議事録

1 開催日時 令和2年2月17日(月)午前10時～11時30分

2 開催場所 習志野市庁舎5階 5-3会議室

3 出席者

【委員】 認定特定非営利活動法人 ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

代表理事 牧野 昌子

千葉工業大学 創造工学部建築学科 助教 田島 則行

特定非営利活動法人 じょいんと 事務局長 松井 秀明

習志野市連合町会連絡協議会 屋敷連合町会 会長 林 孝治

習志野市 こども部 子育て支援課 課長 相澤 慶一

習志野市 生涯学習部 社会教育課 課長 (生涯学習部 副参事) 吉岡 治

【事務局】 協働経済部 部長 片岡 利江

協働経済部 次長 根本 勇一

協働経済部 協働政策課 課長 佐久間 心之

協働経済部 協働政策課 係長 柴野 タ子

副主査 佐々木 康太

4 会議内容

第1 会議録の作成等

第2 会議録署名委員の指名

第3 報告(1) 令和元年度市民活動団体等の施策について

報告(2) 令和2年度習志野市市民参加型補助金の審査方法について

5 会議資料 第3回習志野市市民協働推進委員会に関する資料

会議次第

資料1 令和元年度市民活動団体等の施策(報告)

資料2-1 習志野市市民参加型補助金制度 令和2年度募集要項

資料2-2 令和2年度習志野市市民参加型補助金公開プレゼンテーションスケジュール

資料2-3 二次審査方法

資料2-4 市民参加型補助金二次審査採点票

6 会議内容

第1 会議録の作成等

要点筆記とする。

第2 会議録署名委員の指名

相澤委員、吉岡委員

第3 報告(1) について

【吉岡委員】

習志野市ボランティア・市民活動センターにはどのような団体があるのか。次に市民協働型委託事業の市内駅を起点とした観光誘致コンテンツ(散策マップ)作成事業は作成が終了しているのか伺う。

【柴野係長】

社会福祉協議会のボランティアセンター・市民活動センターに登録している団体のため、詳細を把握していないが、ボランティア・市民活動に取り組む団体と個人が登録している。運営委員会のメンバーは、公民館・協働政策課職員、市民活動団体の代表者等で構成されている。

【佐々木副主査】

散策マップは、完成していない。産業振興課と委託先の団体で内容の最終確認をしており、年度内に完成予定である。

【吉岡委員】

配布先、活用方法について伺う。

【佐々木副主査】

マップを活用した事業の実施予定と配布先について、担当課に確認していない。

【佐久間課長】

担当課の産業振興課では、これまでも習志野市駅からマップを作成しており、そのリニューアルというイメージをもっていただければと思う。マップは各施設に配架し、シティセールスを行っていく予定。駅からマップは市内各駅に加え、隣接市駅からの散策経路も検討していると聞いている。

【松井副委員長】

NARASHI-NOTEの構成と配布先について伺う。また、市民活動団体 PR 週間事業の展示場所が1階展示スペースで実施していたが、この場所は目につかないのではないかと思った。ハミング階段を使うことに対してどのように考えるか伺う。

【柴野係長】

NARASHI-NOTE(地域活動編)は、学生の地域活動を広く周知することを目的としている。東邦大学、日本大学生産工学部、千葉工業大学の市内3大学の市民活動に携わる教授のインタビュー、各大学の学生活動団体の紹介、市民参加型補助金を活用した学生と地域の協働事例を紹介する内容となっている。発行予定の2,000部は、市内3大学、公共施設、町会に配布し、学生と地域住民の協働のきっかけとなることを期待している。

【佐々木副主査】

1階展示スペースは駐車場側の入口とグランドフロアから見える位置にある。ハミング階段の活用については、階段中央のスペースは展示可能ではあるが、その他の階段は幅が狭いこと、段差があり危険であることから展示は見送った。また、参加団体数の面から1階展示スペースが適当と考える。この時期は他事業でもハミング階段を活用することから次年度以降も展示は難しいと思われる。

【牧野委員長】

確かに、階段での実施は危険である。

【佐久間課長】

階段は踊り場もなく、段差もある。階段に設置すると下から見上げるようになってしまう。同じ目線で

見ていただけるよう、1階の展示スペースのみでの実施とした。

【牧野委員長】

感想や様子について伺う。

【佐々木副主査】

前年度までは、市民協働インフォメーションルームと男女共同参画センターの登録団体主催による「みんなでまちづくり」を休日に開催していた。これまで参加者の多くは登録団体の関係者であったのに対し、今年度は市役所来庁者等、これまでとは異なる方へ広く周知することができたという参加者の感想をいただいている。

【牧野委員長】

市民活動団体は一般の方への呼びかけ、周知が得意ではない。そのため、開かれた場での開催がよいと思う。NARASHI-NOTEは何ページの予定なのか。

【柴野係長】

16ページである。

【牧野委員長】

初めての取り組みで、楽しみである。

【田島委員】

前回の委員会会議録について伺う。開催前に各自ホームページで確認しておくということなのか。資料についても、当日配布されていない。委員会資料と議事録は配布されないのか伺う。

【柴野係長】

これまで議事録についてはホームページの公開と同時に各自確認いただくこととし、配布していない。本日の会議資料については、1週間前に届くよう郵送しており、資料を当日持参いただきたいとお願いはしているが、届いているかの確認はしていなかった。資料持参のお願いについては、通知に記載し、電話等で連絡はしていない。

【田島委員】

出張で1週間不在であった。事前の連絡がなかったことから、委員会前に勤務先に資料を取りに行くこともできなかった。資料を当日に配布しないのであれば、資料は郵送しているので当日持参いただきたいという旨のメールを送っていただけると確認できる。

【柴野係長】

次回からは資料送付について、事前にメールでお知らせする。資料配布の際に前回の委員会議事録も同封または連絡メールに添付等、前回の内容を確認いただけるよう対応を検討する。

【牧野委員長】

委員会は年2、3回のため、前回の内容を思い出せない場合もある。資料送付の際に前回の議事録を確認できるとよいと思う。

第3 報告(2) 令和2年度習志野市市民参加型補助金の審査方法について

【柴野係長】

先ほど申し上げたように、令和2年度につきましては、わかもの活力型2件、かだい提案型1件、ちいき活力型8件の申請をいただいております。

一次審査として、市職員が団体要件と事業要件を審査しておりますが、委員の皆様には二次審査の留意点、書類審査中に気が付いた点を報告する。

補助金ありきの事業が多くあった。補助金事業が終わったあと、どのように事業を自立させていこうとしているのか。団体でどう取り組んでいくのか、継続性についてあまり考えていないようなところが見受けられました。支出内容が交通費や食糧費が大半という事業が多く、補助金交付がない中で次年度以降、交通費等はどのようにするのか。また、事業対象がピンポイントで偏りがある事業が多く、これは地域課題を解決する事業なのか、公益性についても疑問を感じた。支出に対する収入を確保していない団体が多く、補助金交付のない次年度以降は事業を継続できるのか。また団体内で情報を共有していないことから事業を計画どおりに進めることが難しいように感じた。団体・事業要件を満たし、書類不備がなければ一次審査は通過となる。各委員には提出書類を確認いただき、公開プレゼンテーションの際にご質問、ご指摘をお願いしたい。

補助金の申請が初めての団体は制度説明会、個別相談会を何回も利用し相談、検討をしているが、採択実績のある団体は昨年どおりであれば通過するだろうという考えで最終日前日、最終日に提出している。発展性や前年度の反省を踏まえた計画なのかをぜひご指摘いただきたい。

【牧野委員長】

令和2年度は11件もの申請があり、補助金申請が初めての団体が多く、よかったと思う。

【田島委員】

資料2-4の採点票は10点満点で記載、資料2-2の評価項目及び配点は公益性30点、発展性20点となっている。これは何か意図があるのか、誤りなのか、審査基準について教えていただきたい。

【佐久間課長】

公益性30点満点、発展性20点満点、先駆性10点満点、費用対効果20点満点、事業内容20点満点と項目ごとに配分点が異なる。短い審査時間の中で配分率を考慮し、採点するのは難しいことから、全ての項目を10点満点で審査し、最終的な配点で、10点満点評価に各項目の配分率を乗じているものである。

【田島委員】

公益性、発展性、事業内容、費用対効果、先駆性の順で配点が異なることから同じ基準で審査するのは難しい。そのため、10点満点で評価するということが。

【佐久間課長】

そのとおりである。

【牧野委員長】

公益性の配点が30点と高いのは公益性を重視しているということである。

【佐久間課長】

公開プレゼンテーション当日の出席について報告する。現在、補助金審査委員は市職員を除く市民協働推進委員会委員7名となっている。三橋委員については当日欠席の連絡があったことから、当日は最大で6名の委員で審査となる。体調・仕事等の急用で、欠席者が出ることもあり、審査委員の人数によっては点数に影響が出ることが懸念される。当日の出席状況によっては市民協働推進委員会委員の市職員2名を審査委員に加えることを検討している。

【相澤委員】

仮採点集計後に意見交換会となっているが、全11事業について行うのか。

【柴野係長】

その予定である。

【相澤委員】

採択のボーダーラインである 70 点に満たない団体については意見交換によって点数が高くなることもあるのか。

【佐久間課長】

採点についての意見交換ではなく、全事業に対して各委員から評価ポイントや事業課題等について感想・意見をお話いただくものであり、他の委員の評価視点を共有するものである。

【相澤委員】

意見交換は全事業をまとめて行うのか、1 事業ずつなのか。

【佐久間課長】

申請順に 1 件ずつ行う。

【田島委員】

4 事業のプレゼンテーション、休憩、4事業のプレゼンテーション、昼休憩、3事業のプレゼンテーションの予定となっているが、審査はいつするのか。

【柴野係長】

プレゼンテーションは 1 事業 10 分、その後に質疑応答 5 分、審査 5 分となっている。1 事業ずつ、5 分以内に採点票に記載していただく。昼休憩の際に仮採点票は一旦回収し、職員が仮採点結果を入力。午後の部のプレゼンテーション終了後の休憩中に午後の部の仮採点結果を職員が入力し、意見交換会で仮採点結果一覧を配布。意見交換会では、他の委員がどのような視点で審査しているのか、感想と採点を参考に、ご自身の仮採点を見直し、必要があれば修正し、採点を確定、意見交換会後に採点票を提出いただく。

【田島委員】

補助金交付件数は決まっているのか。

【佐久間課長】

採択の基準である 70 点を超えている事業のうち、予算の範囲内で決定する。

【田島委員】

意見交換会は、この事業を落とさなければならないというような厳しい雰囲気にはならないということか。

【佐久間課長】

意見交換、視点共有の場であり、採点について審議するものではない。審査委員の審査結果を基に市長が選考を決定する。

【田島委員】

平均点が 70 点を切るというものは、不採択ということか。

【佐久間課長】

委員 6 名で審査した場合、最高得点と最低得点の 2 名は除く、残り 4 名の平均が 70 点以上であれば採択となる。

【田島委員】

70 点を基準に判断をすればよいということか。

【佐久間課長】

そのとおりである。

【田島委員】

大学の基準点は 60 点のため、70 点が基準であるという意識を持たなければいけない。

【牧野委員長】

1週間前に届けられる書類の中には、事前審査用の採点票も同封されている。申請書類を確認しながら、審査当日の仮採点の前に事前仮採点をしておく、コメントを記入し、質問を考えておくとよい。プレゼンテーション当日は、その事前仮採点を修正する程度にしておく余裕がある。

【吉岡委員】

わかもの活力型、かだい提案型、ちいき活力型はどれも同じ採点票で審査するのか。

【柴野係長】

同じ採点票となる。

【田島委員】

かだい提案型のテーマについて、決定理由と決定までの経緯を教えてください。

【柴野係長】

庁内にテーマを募集したところ男女共同参画センターから「デートDVの啓発」というテーマがあがった。市として計画を策定し、DV防止と被害者支援に取り組んでいるが、DVと比べてデートDVの認知は低く、デートDVとは何か理解されていない。近年、親しい間柄にある若者の間のデートDVの深刻な被害も報告されており、若年層に対する取り組みが重要となっており、将来的にDVを防ぐためには若年層と保護者に対する啓発が重要であることからこのテーマとなった。

【片岡部長】

男女共同参画センターの立ち上げと同時に市はDV防止に取り組んでいる。DVはパートナー関係だけの問題と思われがち。ここ数年、学校においてもデートDVの啓発に取り組んでいるが、行政のみの周知は難しい面もあり、市民活動団体のノウハウを生かし有効な啓発ができればと考えている。

【牧野委員長】

行政が決定した課題テーマを市民活動団体の力で解決する。他の市町村では、なかなか庁内から課題テーマがあがってこない。行政が提示した課題テーマを市民活動団体のノウハウで解決するのは、協働がどのように進んでいくかのバロメーターになる。

【松井委員】

わかもの活力型の申請は2件ということによいか。申請に至った経緯教えてください。昨年度は申し込みがあったのに採択されていないと思ったが。

【柴野係長】

平成30年度の申し込みは1件、令和元年度は0件であった。令和2年度は千葉工業大学と1東邦大学の学生グループの2件である。

千葉工業大学生は市民活動団体と一緒に市民活動をしていたところ、市民協働インフォメーションルームを利用し、そこに設置されていた市民参加型補助金のチラシをご覧になり、活用を考えたとのこと。東邦大学生については、市民協働に携わる教授から市民参加型補助金の案内、学内に設置されたチラシと市ホームページをご覧になり、活用を考えたとのこと。

【牧野委員長】

制度があっても応募がなければ意味がない。去年は学生の応募がなく残念であったが、令和2年度は2件もあり嬉しいことだ。

第4 その他(事務連絡等)

【柴野係長】

令和元年度の市民参加型補助金実績報告は、令和2年3月末日までに実績報告書の提出をお願い

いしている。実績報告会は4月18日(土曜)午前中の予定。開催1週間前までには各委員に資料を配布する。審査委員が審査から実績報告まで関わることで、採択事業のステップアップや次年度の審査の質の向上に繋がると考えている。ご多忙のところ誠に恐縮ではあるが、出席をお願いする。また、3月8日(日曜)の公開プレゼンテーションの資料、開催1週間前の2月下旬から3月上旬に各委員の予定を伺い、お届けするので、審査前に書類を確認いただきたい。

【田島委員】

3月8日(日曜)の公開プレゼンテーション後の意見交換会の予定時間を伺う。

【柴野係長】

30分程度の予定。